
ExtraMaxWay

閑夏明野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ExtraMaxWay

【Nコード】

N4000BA

【作者名】

閑夏明野

【あらすじ】

魔術と科学、そして異能者と復活者が共存する世界。更に言うならその世界は、殺人を許可されていた。

西暦2224年、世界には魔術と最先端科学が散らばっていた。

2050年に起きた、地球の歴史上最大規模の地殻変動により、アメリカは一つの大陸になり『TASC』と名を変え、日本はハワイとくっつき『HAJACK』と名を変えた。

HAJACKには最先端科学と魔術が集められ、科学者は『電磁工光成形社』、魔術師は『世界立魔術学校』こと『World Wi

tchcraft・School』でそれぞれの力を蓄え、放出することで世界に貢献していた。

この世界は基礎となる魔術師、復活者であるワレラ、そして異能者であるIVEが同居するごちゃまぜ世界であります。

何とかコンパクトに収納出来るよう頑張ります。

Extra Package

あるノートがあった。

何故“あった”なのか。何故“過去形”なのか。簡単なことだ。

その存在を全世界の人間が知った。そしてその存在は事実上消え去った。全世界の人間の共通の認識として、それは“あった”のだ。そうであるならやはり“あった”であり“過去形”なのだ。

この世界からDynamic Worldは消えた。そして、面白そうな世界がこの世に落ち、複合世界が圧縮され個体世界として顕現した。

“殺人が許された世界”。

“小説の中の世界”。

“真の意味での魂の循環が損なわれた世界”。

そして、ただ今2224年。この世界が通常通り運動していった世界。

全てが合わさった世界が今回の舞台。

それはまさに鍋とでも呼ぶべき世界だ。寄せ鍋にモツ鍋にふぐちりにキムチ鍋を全てごちゃまぜにした混沌とした世界だ。

いや闇鍋というべき・・・こんな話はどうでもいいな。

・・・ん？ああゴメンゴメン。

ベースとなる世界、俺が最後の権限者としてDynamic Worldに記した世界がそれだ。

如何にもな世界で、案外これを見ている人は辟易するかもね。でも残念ながらこれ以上劇的な変化は起こせない。

“魔術が発展した世界”。

どうかな？

嫌気がぼわーと来たら？

ま、回れ右するならさっさとした方がいい。そうしない人も億に一人くらいはいるかもしれない。

なら早く始めなきやね。

ようこそ物好きさん。

殺人と小説、魂、魔術が混淆する世界へ。

Tardiness (前書き)

〰お早うございます。H A J A C K第九地区に2 2 2 4年2月2 4日の朝が来ました。今日のお天気をお伝えします。今日は概ね晴れでしょう。昼は太陽が燦燦と輝き、夜は月が静かに街を照らすでしょう。降水確率は1 0 %。最高気温6度、最低気温1度。これ以上の詳細はお天気発信地にて確認して下さい。アドレスは、h m j c ..
／w w s . o t e n k i - h a s s h i n t i ／2 2 2 4 0 2 2
4。アドレスはh m j c .. ／w — — 〰

Tardiness

始めから特殊なんて詰まらない。日常を回顧し延々と廻りつづけるのも詰まらない。

けどよく考えてもらいたい。

異常と通常の同居なんて有り得ることじゃない。

だとするなら、真の意味で面白いのは、日常をある程度回顧し、途中から特殊になることだ。

最近はそのような娯楽小説が多いよね。別に卑下してるんじゃないよ。リスペクトしてる訳でもないけど。

ま、悪いけど今回は最初から特殊なパターンっす。

・・・はあ。と言っても、今の世の中特殊なのは俺だけじゃない。

異端な力であるADOMアダムを使うIVEイヴ。

死人が咎人を狩るため復活したワレラ。

それに比べれば、世界に普遍として存在している魔術師はまるで通常と言えるだろう。

ま、悪魔同化してる辺り、少しの負い目も無いかと言えばそうではない。若干、いや、かなりチートだ。

それは置いといて、どうだろうか。

こんな俺は確かに特殊だが、“少し”だ。結局他人と比べれば俺なんて単純なもんさ。

こうやって誰ともしれん誰かさんに話すのだって普通さ。ある俺の好きなゲームでは、プレイヤーに語りかけるような場面を序盤に入れた。

けどこっちはゲームじゃない。ただ俺が独り言が好きな変人っただけだ。

「独り言とは随分な言い様だ。私がいるのだから、貴様の虚しいモノログも決して独り言にはならない。」

・・・かもな。

あーあ。意味も無い一人会議が出来なくなった事を、喜べばいいのか、悲しめばいいのか。

「それは追い追いかえればいい事だ。それよりいいのか？」

・・・何がさ。

「私は貴様と同化して初めて知った。私の世界は常に無形でな、型に嵌まった事に意味など見出だせなかった。と言うより、意味の見出しかたを知らなかったと言うべきだろうな。なんたって無形なんだから。」

結局何を知ったんだ？

「型に嵌まったことさ。一つ挙げるなら時間に縛られる事だな。」
時間・・・？時間？

そうだ、今は・・・。

8時35分。

・・・あー。

「もっと早く言ってくれよ！」

「ふ。形式張った事も好きになったが、意味の無い会話を延々と続けるのもまた至高。いい暇つぶしになるからな。」

「あんたはそれでいいかもしれんけど！ああそれより時間だ！完全に遅刻さ！あーもうどうしようもないくらいに遅刻だあ！」

・・・いや、まあいいか。

「いいのか？」

ああ。大体いつもかっちり行き過ぎなんだ。・・・？

「どうした？」

いや、よく考えりゃ遅刻もくそもないやん。

世界立魔術学校に登校時間なんて無かった。

そう、俺も今年から晴れて世界立魔術学校、略してW・W・S『W

orld Witchcraft School』の生徒になったんだ。

ま、通ってなかった、もとい通えなかった理由は、今まで適正審査を受けてなかったせいだと、周りには言われた。

なんたって今回審査を受けたら数値が1000越えてたからな。

「それも私の膨大な魔力のお陰なのだな。」

「言うなよ。」

取りあえず遅刻というモノに縛られていない事を思いだし、安堵した。

ホントこういう所は律義にチキンだな俺。

ベッドから降り伸びをする。

「そういえば今日は母君からのお叱りが無いな。どうしたのだ一体？」

忘れたのかよ。今年銀婚式だから二週間世界中を飛び回るって言うってたろ。

「ああ。忘れていたよ。」

だからこれから二週間は自由に自由を謳歌出来るって訳さ！

寝過ごそうが、飯を抜こうが文句を言う奴は誰もいない！

嗚呼是れが天国、楽園か！

「ははは。嬉しそうだな。」

そりゃもうな。

「だが遅刻が無いとは言え、転校初日から怠惰を演じるのはどうかと思うぞ。」

・・・確かに。

頭もそれなりに冴えてきたしそろそろ下に行くか。

下に降りると、机の上に五万円だけが置いてあった。

「さすが分かってるね母さんは。」

現在、現金を持ち歩く者は極端に、とまで言わないが少ない。そりゃ基本はクレジットカードか電子マネーなんだけどね。

一周回って現金のいいと言う人も少なく無い訳さ。

俺もその一人だね。電子マネーも『Betw^{ビットウインライン}enLINE』こと

『ベリネ』に十五万程入っているが、やっぱ現金支払いのが好きだ。確かにベリネでも残金を視覚化し、実際に触ったりも出来るが、やはり三次元情報として触れる方がいい。

「そんなものなのか？」

「そういうもんさ。電子タブレットなんかが出てきて、新聞なんかも紙製は少なくなったが、未だに電子媒体にしない新聞もある。詰まるところそういうことだ。」

かく言う俺も紙媒体は好きだ。

本なんかは紙でないとな。

ベリネでニュース何かを確認しつつテレビを点ける。

テレビも今では壁にマイクロチップを埋め込むだけで見られる、『Ftv』が主流だが、我が家では前時代の、ちゃんとテレビとしてそこにある物を使っている。

何でもかんでも二次元情報にするのはどうかと思う、というのが我が家の考えだからだ。

「・・・特に面白いニュースはないかな。」

「ん？それは何だ？」

「それ？・・・へえ。」

ベリネを開発した電磁工光成形社^{でんじこうこうせいけいしゃ}が新製品を発表するらしい。

「だが、軍事マークが付いているからあまり貴様には関係ないな。」

「確かに。」

軍事マークが付いているニュースは、軍隊かイヴ関連のニュースが多い。

他にも国政マーク、天気マーク、世界情勢マーク、エンタメマークなどがあるが今はどうでもいい。

冷蔵庫からミネラルウォーターを取り出し一口含む。

「ごく。ふー。よし、そろそろ行くとしますかね。」

オートロックの、指紋認証式錠が付いたドアを閉め、誰もいない我が家を後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4000ba/>

ExtraMaxWay

2012年1月13日14時45分発行